



# 鎌倉殿

を支えた

源範頼と

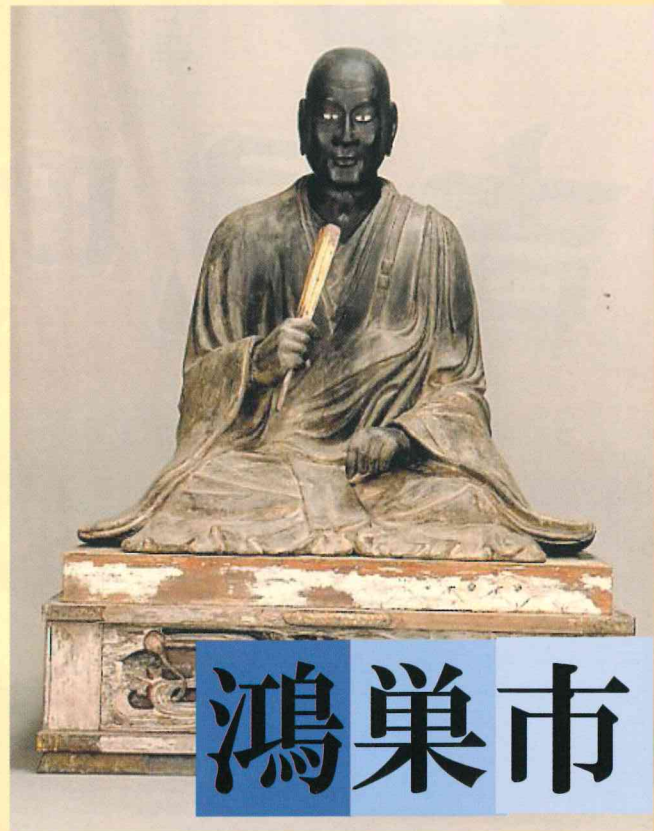
安達盛長

吉見町



北本市

3市町合同制作



鴻巣市

# 史跡巡礼マップ



# 吉見町観光・文化財マップ



## 【安楽寺(吉見観音)までのアクセス】

- ・お車でお越しの場合 関越自動車道「東松山IC」より20分  
圏央道「川島IC」より20分
- ・電車でお越しの場合 東武東上線「東松山駅」よりタクシー15分  
JR高崎線「鴻巣駅」よりタクシー20分

## 【お問い合わせ先】

吉見町産業振興課商工観光係 ☎ 0493-54-5027

## ◎源頼朝の弟である源範頼の館跡

### 息障院 (伝範頼館跡)

吉見町大字御所地内にある息障院は源範頼の居館跡と伝わり、この地が御所と呼ばれるのは範頼の館があったためと言われています。源範頼は頼朝の弟で、平治元年(1160)に起こった「平治の乱」の後に吉見町の岩殿山(息障院・安楽寺)に身を隠していたと伝わります。

範頼は兄の頼朝や弟の義経に比べると、その生涯や当時の活躍について詳細な記録が残っていないため伝承に頼ることが多い人物です。

源平の合戦において、範頼は頼朝の代官となつて大軍を率いて活躍しましたが、建久4年(1193)8月に謀反の疑いにより伊豆に流罪となりました。流罪後については諸説ありますが、範頼が亡くなった後はその子孫がこの地に居住して吉見氏を名乗つたと言われています。

息障院が現在の地に移つたのは14世紀末頃と伝わります。境内の周囲に残る堀は、範頼の館の一部とも言われています。



# 吉見町 安楽寺 (吉見観音)

## ◎札所巡礼地としても有名!

岩殿山安楽寺は坂東11番の札所で、古くから吉見観音の名で親しまれてきました。安楽寺の東約1kmには「伝範頼館跡」と呼ばれる息障院があります。この息障院と安楽寺は、かつては一つの大寺院を形成していたことが知られています。当時、息障院には多くの御堂がありましたが、その一つの観音堂が現在の安楽寺になったと伝わります。





# 北本市観光・文化財マップ



## 【石戸蒲ザクラまでのアクセス】

北本市石戸宿3-119東光寺境内

- ・お車でお越しの場合 圏央道「桶川北本IC」より5分
- ・電車でお越しの場合 JR高崎線「北本駅西口」から北里大学メディカルセンター行きバスで15分、「北里メディカルセンター」バス停下車、徒歩5分

❁ 北本市内のその他の範頼関連の情報はこちら→



## 【お問い合わせ】

北本市産業観光課 商工労政・観光担当 ☎048-594-5530

# 北本市

## 日本五大桜 石戸蒲ザクラ

(国指定天然記念物 指定100周年)

樹齢800年。語り継がれる源頼朝との関係性とは。

「石戸蒲ザクラ」は北本市石戸宿の東光寺境内にある樹齢約800年とされる銘木です。大正11年に国の天然記念物に指定され、令和4年で100周年になります。当時調査にあたった東京帝国大学の三好学博士は「稀な巨木であること」「貴人の伝説を伝えていること」、また「特殊の種類に属す」として、特に蒲ザクラの樹種に注目し、絶対に保存するべきであると主張したそうです。

伝承される貴人は「蒲冠者源範頼」であり、蒲ザクラの名称に記念されています。歴史上範頼は、兄・源頼朝からあらぬ疑いをかけられて伊豆の修善寺に流され、そこで亡くなったとされています。ところが、追っ手をのがれて東光寺までたどり着いたとの異説があり、その時についてきた杖を地面に刺すと、根づいて蒲ザクラに成長したとの伝説が残されています。

樹種は「カバザクラ」という独立した和名が与えられていて、野生種であるエドヒガンザクラとヤマザクラの自然雑種とされています。自生するものは東光寺にあるこの蒲ザクラが世界唯一のもので、花の見頃は例年4月10日前後で色の白い小ぶりの花を咲かせます。





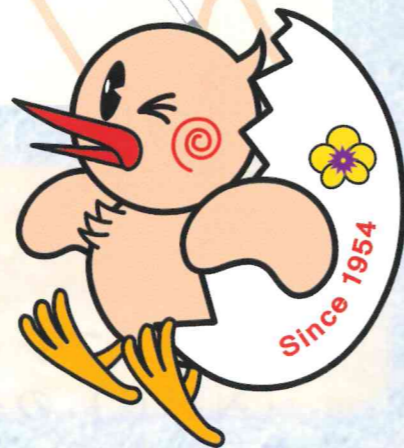
# 鴻巣市観光・文化財マップ



【放光寺までのアクセス】 鴻巣市糠田1435  
 JR高崎線「北鴻巣駅」よりタクシー10分  
 JR高崎線「鴻巣駅」よりタクシー15分

【お問い合わせ先】

鴻巣市商工観光課・生涯学習課 ☎ 048-541-1321



# 鴻巣市

鴻巣市糠田にある放光寺には、安達藤九郎盛長の肖像と伝わる坐像が残されています。また、伝承では、糠田に所領と館があり、放光寺を開基したと言われています。

安達藤九郎盛長(1135～1200)は、治承4年(1180)源頼朝の挙兵に応え、相模国にて功をあげ、頼朝の信任を得ました。その所領は下総国・武蔵国に及び、建久5年(1194)には鶴岡八幡宮の奉行人となりました。13人の合議制にも名を連ねています。正治元年(1199)頼朝の死去に伴い出家して「蓮西」と号しますが、その後も北条時政、大江広元などと共に鎌倉幕府の要職に就き、重要訴訟や裁決に参加しています。正治2年(1200)66歳で死去しました。

この像は出家してからのものと言われており、その様式から南北朝時代(1343～1390)の作品と考えられています。



(県指定文化財  
木造安達藤九郎盛長坐像  
糠田 放光寺蔵)

## 13人の合議制 のメンバー 安達盛長

源頼朝や義経の祖先である源経基は、その居館を鴻巣市大間に構えていたと言われています。  
 源経基(917?～961)は、清和天皇の第六皇子貞純親王の子で、「六孫王」と号したとされています。  
 武蔵介となつてからは関東へ下り、応和元年(961)には源姓を賜ります。源氏の系統中、後に最も栄えたのは経基を祖とする清和源氏で、頼光、義家、義朝、頼朝などを輩出しました。  
 また、武蔵介経基の名は『将門記』等の古文書に見られ、その行状が広く知られています。  
 本跡がいつからこの名称で呼ばれていたかは不明ですが、『新編武蔵国風土記稿』にその記述があることから江戸時代には人々の間で本跡が経基の館跡だと考えられていたことが窺えます。

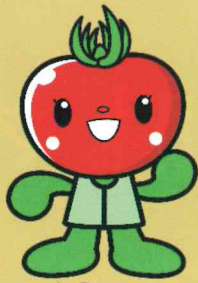
## 経基の居城と伝わる 伝源経基館跡

(遺跡内の土塁と構堀)



(県指定史跡 伝源経基館跡 遠景)





北本市「とまちゃん」

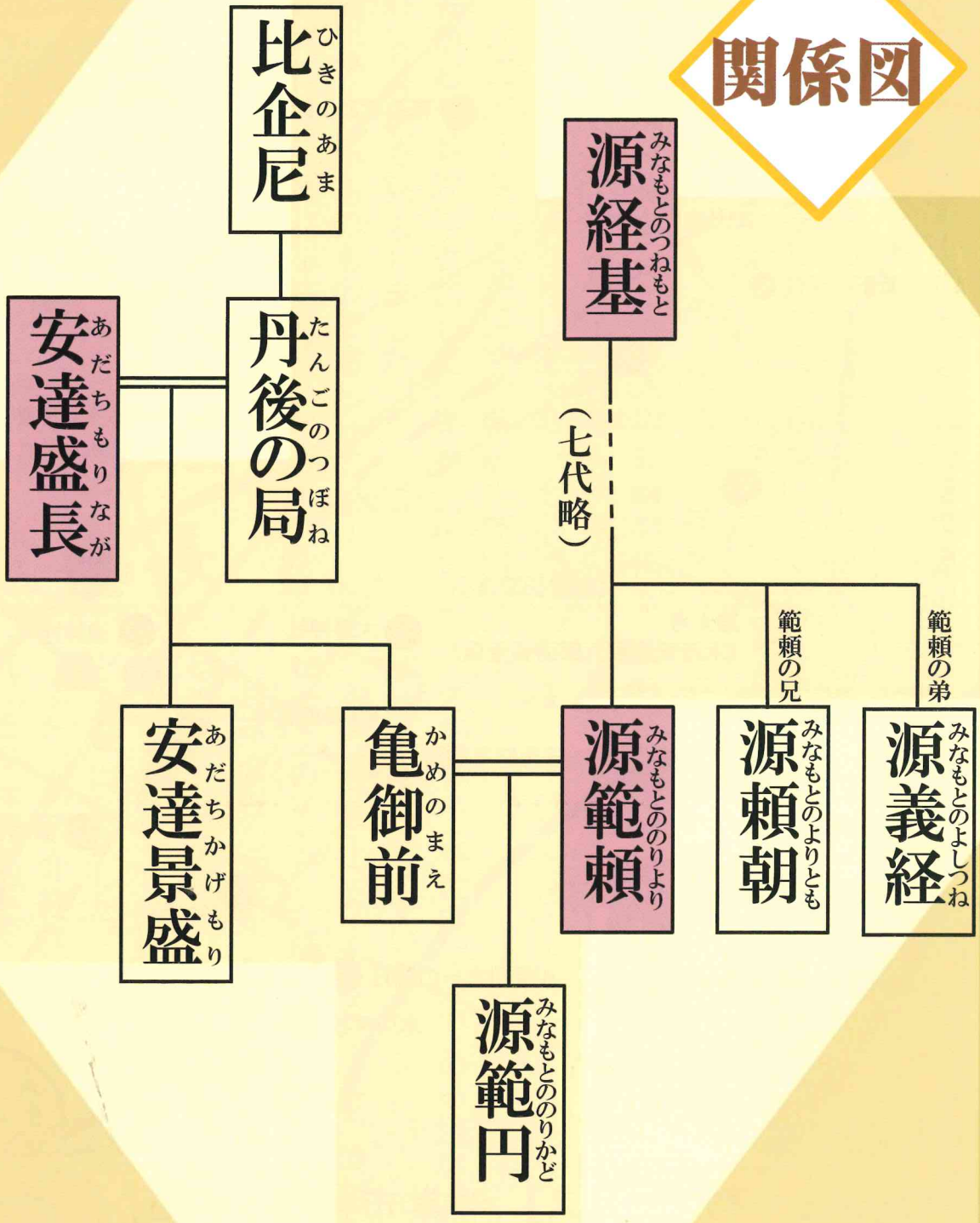


吉見町「よしみん」



鴻巣市「ひなちゃん」

# 関係図



今回本誌で紹介する  
ゆかりのある人物

このパンフレットは、2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(NHK)の登場人物にゆかりのある3市町(吉見町・鴻巣市・北本市)が合同で製作しています。